

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400248		
法人名	株式会社 エーアイエム		
事業所名	グループホーム 縁ゆくり		
所在地	秋田県大館市字桜町35		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域にある施設ということを重視し、地域の行事への参加や見学、地域の行事に合わせた活動を行うことができるように取り組んでいます。季節の行事や食事を意識し、散歩の際も敷地内にある桜や紅葉を見ていただく等、五感で季節を感じるできるように配慮しています。また、利用者の方々の希望をお聞きし、可能な範囲の中で個別サービスを提供するようにしています。
 提携医療機関が同一敷地内にあることで、普段の利用者の方々の様子について情報提供をスムーズに行うことができ、利用者の方々の医療的なケアを手厚く行うことができていると考えています。
 また、提携医療機関と連携をし、年に2回認知症カフェを行い、地域の方々への認知症についての知識の提供、参加者間の交流の機会の提供を行いました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域行事への参加や認知症カフェや行事などで積極的に地域住民との関わりを大切にしている。近隣には文化会館や図書館など公共施設が多く生活に楽しみや彩りをもたらしている。利用者の視点で生活を捉え、一人ひとりを尊重し、馴染みの暮らしや地域社会とのつながりを支えることで、不安なく穏やかに過ごすことができる。新人研修、内部研修など職員を育てる仕組みがしっかりしており職員の成長、やる気、サービスの質の向上につながっている。敷地内に病院があり、利用者・家族は安心して過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感謝・まごころ・笑顔を理念とし、玄関に掲げています。戦争を体験し、貧しい時代から今を作り上げてくれ、またこの施設を選んでくれたことに対する『感謝』『まごころ』で接しています。また、『笑顔』の溢れる居場所であるよう職員全員で日々の実践につなげています。	玄関に掲示し共有、実践につなげている。新人研修の際に、作成の経緯を含め理念について伝えている。また、勤続6か月、1年、3年には振り返りフィードバックする機会がある。スタッフ会議で認知症について学び専門的知識のもと日々のケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の公共施設への散歩や地域のお祭り等へ参加し、近くの小学校の児童と交流を行いました。お祭りでは近隣の山車が敷地内にきて太鼓や踊りを見せてくれました。 また、家族交流行事への町内会の方の参加、認知症カフェの運営等を通して地域との交流を行っています。	近隣には図書館、文化会館、幼稚園など公共施設が多くあり、催し物や行事に参加している。家族交流会のバーベキューには地域の方も参加、認知症カフェの開催、『RUN伴』(認知症の人や家族、支援者、一般の方がタスキリレーでゴールを目指す認知症啓発のためのイベント)で中継地点を担ったり地域の活動、交流を積極的に行っている。施設長が町内会でアピールしたり、グループホーム通信を近所のポストに配布するなど地域から受け入れてもらえるよう事業所の基盤を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	グループホーム便りや認知症カフェにて認知症に関する情報等の提供を行っています。 また、職員が近くの大学での授業を受け持ち、認知症に関しての知識も大学生に伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行政、包括、家族など多角的な視点から意見交換を行い、利用者の生活向上につなげています。、ヒヤリハットや行事についてお伝えし、具体的な課題の検討を行っています。	定期的開催し、事業所の取り組みを報告する中で、利用者の生活や運営に関してアドバイスをもらいサービスの向上に活かしている。外出行事の梨狩りの場所や認知症カフェの方向性、消防訓練についてなど多岐の課題検討、情報収集の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市福祉課職員や包括の職員が運営推進会議の委員として参加し、情報交換をしているほか、施設の運営、利用者の小さなことでも相談できる関係です。	生活保護担当者の訪問が月に1回ある。運営推進会議だけでなく、様々な機会を通じて、市の長寿課、包括支援センター、社会福祉協議会と関わりを持ち、運営や現場の実情を報告しながら利用者の対応や日々の疑問を相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を開け、自由に入出することができ環境を整えています。センサーを取り付け、安全を確保しながら見守りをするように心がけています。 外部研修における権利擁護の内容の共有、入職時研修にて身体拘束防止の研修、運営推進会議での身体拘束防止に向けての取り組みを行っています。	運営推進委員と身体拘束廃止委員が兼任の形となっており、定期的に話し合い確認が行われている。身体拘束のマニュアルを見直し、経過観察・再検討などの様式も整備されていた。マニュアルはいつでも見れる場所にあり、職員は新人研修や外部実践者研修などで理解を深めている。センサーの取付に関しては建物の構造上、玄関が死角になっているため訪問者や外部からの侵入など安全のための対応であることを確認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する情報の提供、外部研修の情報提供を行っています。職員が受けた権利擁護の研修の情報共有、入職時研修での虐待防止についての研修を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では成年後見制度等を利用されていらっしゃる方はいません。成年後見制度等について学び知識の共有を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際には書類を用意し、口頭での説明も行い、同意をえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際に利用者の方々の様子をお伝えし、ご家族のお話をうかがうようにしています。また、年2回、ゆったりとお茶の時間を持ち、利用者の方々のお話を伺い、利用者様の意見を取り入れる仕組みづくりをし、運営に反映させています。	相談ボックスを設置したり、運営委員会の中で家族代表からの意見、また利用者茶話会で意見を聞き出すなど積極的に聞く努力、配慮など工夫しサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事等の後には振り返りを行い、その場で出た意見を次回以降に反映させるようにしています。また、スタッフ会議を定期的開催し、それぞれの意見を出し合うようにしています。	月1回給料明細を渡す際に面談を行っている。また日頃からコミュニケーションが図りやすく、勤務体制や物品の購入など、利用者の状況や日々のサービスの実情から反映させていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算にて処遇の改善に努めています。各職員の経験に応じて、外部研修の機会を提供し、キャリアアップを応援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務としての外部研修への参加、内部研修として医療関係者による研修を行っています。また、外部研修(記録の書き方等)もスタッフ会議での情報共有や紙面による情報共有を行い、研鑽を積める環境の提供を行っています。 職員自身の振り返りをもとに、アドバイザーによる面談を行い、研鑽をつめる環境を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携、医療・福祉機関との連携を行っています。また、外部研修に参加した際には同業者と交流を行い、様々な情報交換を行っています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人のお話をうかがい、入居直後は特に配慮し、注意して様子をうかがい、お話をうかがうようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族からの話を丁寧にうかがう機会を持ち、入居前からの関係づくりに努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々の得意な家事をお願いし、声掛けをしながら、掃除や料理、洗濯物干し等を行おうにしています。行事の際にはきりたんぼやおにぎり等を作っただき、普段でもホットケーキやたこ焼き等、共に作り、食べることを楽しんでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月、利用者の方々の様子を手紙でお伝えしており、年に一度、家族交流会(バーベキュー会)を持ち、普段話せないことなども話せる場を持ち、交流をはかっています。 BPSD等ある際にはご家族と相談し、一緒にどのようにしていくか検討するという事もありました。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スーパーへの買い物、馴染みの床屋や美容院等これまでの生活継続ができるよう支援しています。地域の祭り等に積極的に参加し、昔を振り返り懐かしんだ、地域との接点を持ち、地域での生活の継続を図っています。 近くに小学校や文化会館、図書館等あり、散歩の際にその場所の思い出を話されることもあります。	地域のお祭りやスーパー、昔から開かれている市日など地域社会との関わりや馴染みの場所、生活の継続のため外出する機会がある。墓参りや年末年始外泊など、これまで暮らしてきた地域、家族とのつながりも大切にしている。仲間とのカラオケ、退職された会社の会、地域の民生委員・友達の来訪など大事にしてきたことを続けられるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用される方々の心情に配慮し座席や環境を整え、交流しやすい環境づくりができるよう取り組んでいます。職員が間に入っての利用者間のコミュニケーションを繋いだり、行事やアクティビティを通してが交流が図れるように支援しております。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退去等の際にもご家族と連絡をとりあい、その後のご本人のためにできる限り取り組ませていただいています。また、認知カフェを行った際には退去された方のご家族もいらっしゃり、色々とお話をしてくださっていました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用されている方々のお話をうかがいながら、活動を組み立てています。また、折に触れ、行きたい場所やしたいこと等をうかがい、可能な範囲でご希望に添えるよに取り組んでいます。年に2回お茶会を開き、利用者の方々の意向をくみ取れるよう努めています。	年2回の茶話会や日常的な会話から思いや意向を引き出している。一人ひとりに合わせたコミュニケーションで思いを汲み取り、行事や外出、生活のニーズに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族や本人との面談、居宅支援事業所の介護支援専門員からの情報提供、入居後の様子等から、基本情報(これまでの暮らしのこと等)をしっかりと把握して日々の生活や活動に取り入れるよう努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りを通しての理解、介護記録を通して職員間での状況の共有を行い、一人ひとりの利用者の方々の状況把握に努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	折に触れご家族や利用者、現場職員の意見を反映し、モニタリング、サービス担当者会議を定期的開催しております。情報交換を行い、意見を出し合い、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成しております。また、記録、基本情報、介護記録等をプライバシーに配慮しながら職員がいつでも閲覧しやすい環境の整備を図っています。	担当制としているが、スタッフ会議の際に全員で話し合いを行っている。医療に関する記録は赤、家族の意向などは青などケース記録の際に工夫し、アセスメント・モニタリングに活かされている。設定期間毎、また状態変化時の見直しを行い、利用者を主体とした暮らしを反映した介護計画となっていた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についての介護記録を作成し、職員間で情報共有を行っています。スタッフ会議やモニタリング等で意見要望や利用者の状況を出し合い、情報共有をベースとしながら、支援の見直しを行っています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や見学、近所のお店や公共施設への見学、小学校との交流を行い、文化に触れる機会があります。 クリスマス会等の行事の際にはボランティアの方々にお力を貸していただき、利用者の方々に楽しんでいただけるよう取り組んでいます。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望や専門的な治療については、これまでのかかりつけ医を受診することができ、事業所でも対応している。同一敷地内の医師も事業所の経営に関わっており、状況に応じた往診や日々の利用者の状態把握をしていただいています。夜間も医師から指示を受けることができ、速やかな対応が可能。連携を密に行い、いつでも相談できる体制を構築しています。	本人の状況により、本人、家族の希望を聞きながら、かかりつけ医に家族対応で受診している。家族対応が困難な場合は職員対応、また状態に応じて家族に職員が同行する場合がある。敷地内の病院を希望する家族も多く、日々の状態把握につながっている。かかりつけ薬局があり、一包化や服用時間の色分けなど誤薬のリスク回避、また相談など懇意な関係となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診にて医師、看護師に情報提供を行い、適切な治療を受けられるよう取り組んでいます。 また、非常勤の看護師(介護職兼務)が勤務の際には、必要に応じて相談を行っています。同一敷地内に病院があり必要な際には看護師に相談できる体制となっています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院された方はいらっしゃいませんでした。過去には利用者が入院した病院を訪問し、病院関係者との情報交換を行い、今後について話し合いをもつ等、連携を行うことができました。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化の際の対応について書面と口頭で説明をしております。医療関係者との連携も図り、可能な限り対応しております。	入所時に方針を伝え、状態変化時は家族と話し合い、事業所に対応しうるケアを行っている。重度化や終末期ケアの必要性を理解し、看護師の配置や職員の教育など課題を解決しながら、家族の意向により検討したい意向がある。	必要な時代はいずれはやってくと認識されている。医療との連携、職員の教育、マニュアルの整備などを含め、職員と共に現状でできる最善のケアについての話し合いをする機会に期待したい。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成しています。また、緊急時の対応についてはすぐに目に入る場所に掲示しています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し、年2回利用者と共に火災や地震等を想定した避難訓練を実施しています。消防署の協力を得て、避難経路の指導や消化器の使い方等実効的、実践的な訓練となっています。防災頭巾等も作って備えています。	日中、夜間想定訓練を行っている。訓練の後、振り返りを行い、確認した部屋は名札を裏返す、頭巾の作成など態勢の整備を行っている。食料や水、トイレ、寒さ対策など準備している。	訓練に地域住民の参加が難しい状況である。職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人々の協力が得られるよう話し合い体制整備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活背景を考え、その人らしい尊厳を保てるよう敬意を払い、プライバシーに配慮した言葉かけを行っております。	プライバシー保護マニュアルにて対応を徹底している。日々の生活の中で、戸・カーテンを閉める、親しみかつ丁寧、敬う言葉遣いで接するよう指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れ利用者の方々に行きたい場所やしたいことを伺い、可能な限り対応をさせていただいています。また、個別サービスとして、その方の誕生日に行きたい場所等を決めていただき外出する機会を設けております。また、ゆっくりお茶会で意見、要望をお聞きしております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々へのペースや望まれる過ごし方に応じた支援を行っています。 洗濯物量みや食器拭き等、手伝ってくださると希望された方には積極的に手伝っていただいています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の方々のおしゃれや身だしなみの支援を行っています。外出の際には外出の声掛けをし、季節に合わせた服装やおしゃれに気付けた服装を選ばれるよう支援をしています。 10月には口紅等を用意し、ご希望者には化粧をしていただくこともありました。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内にも小さな畑があり、種うえや草取り等をして、自分たちが作った野菜が食卓に並ぶこともあります。利用者の方々への希望を献立に反映させたり、季節を感じる食事(山菜、菜っ葉の味噌汁、きりたんぽ、ハタハタ等)を提供し、楽しく食事をしていただけるよう努めています。 野菜切り、盛り付け、配膳、片付け等で利用者の方々と一緒に取り組んでいます。	野菜の下ごしらえ、味付け、配膳など利用者一人ひとりの力を活かしながら職員が一緒に行っている。畑から野菜を収穫し、旬の食材や新鮮なものを採り入れ季節を感じる事ができる。外食や行事の特別な料理、テイクアウト、ラーメンの屋台など趣旨を凝らし楽しむことができる。調理方法も柔らかめ、刻みなど利用者の状態に合わせて提供している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量について記録し、常に確認を行い、水分補給ができる機会も確保しています。飲み物についても一律ではなく、希望があった際には可能な範囲で希望の飲み物を提供しています。 居室で飲み物をのまれる方等は、ホール用と居室用の湯飲みを用意し、対応させていただいています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の方々に合わせて、声掛け、見守り、一部介助等による口腔内のケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄ができるように支援を行っています。排せつの間隔があていれば、何気なく声掛けをし、回数が多ければ様子観察をして受診に繋げたりと体調により援助内容を変えて、自立にむけた支援を行っています。夜間は利用者の状態に合わせポータブルトイレも利用しています。 トイレの場所が分かるように視覚的な手がかりも利用するようにしています。	排泄表にて排泄パターンを把握し、段階的に自立に向けた支援をしている。一人ひとりの排泄の困難な要因を確認しながら、2人介助、トイレの場所が分かるように工夫するなどトイレでの排泄に向けて個別支援を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事を心がけ、運動・体操も行い、排泄について利用者の方々の状況把握に努めております。水分補給にも努め、便秘気味の方については医療機関にも相談しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に配慮しながらも好みの温度や入浴時間を考慮して順番の変更等を行っています。安心して入浴できるよう脱衣所の保温等への配慮も行っています。 入浴中に歌をうたわれる等、その方その方の入浴のスタイルを尊重しています。	入浴剤を使用したり、準備からお手伝いをして入浴への不安を軽減、また2人介助など安心して入浴できるよう対応している。受診、行事、体調に留意している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏場はエアコンを随時使用し、室温調整をしております。冬季の間は入眠前に電気あんかを利用したり、温かい環境に配慮し、安眠することができるよう取り組んでいます。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師との連携を密に行っています。薬の変更等があった際には様子を伝えたり、薬の効果、副作用についての情報をいただいています。 「薬に関する質疑応答会」として、薬剤師を講師として質問を出す形での勉強会も開いています。 薬について不安なことがあった際には随時、薬剤師に連絡をとるようにしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事をしていただいていた利用者の方には畑での野菜の種まき、水やり等を手伝っていただきました。また、嗜好品等についても、利用者の方々の希望にそえるよう出来る限り取り組んでいます。 野菜の皮むきや配膳、食器拭き等をお願いし、役割をもっていただけるようお願いしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣にある図書館や文化会館等への散歩に出かけたり、催し物を等を楽しむ機会があります。花見、バラ園見学、お茶会、秋祭り等季節を楽しむことができるよう取り組んでいます。 家族からの希望があれば健康状態について伝えながら随時、外出や外泊の対応を行っています。	散歩や近隣の店に買い物、近所の花屋さんに出掛けたり日常的に外出する機会がある。誕生日には希望する場所へ出掛けたり、他施設に入所されている息子さんに会いたいなど利用者の希望を把握しながら対応している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望でご自身で管理される方、施設で預からせていただいている方がいらっしゃいます。 花見の際には出店で買い物ができるように、預り金等を準備して出かけることができました。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望がある際にはご家族から同意をいただいた方へ電話をしていただいたり対応をさせていただいております。見守り携帯を使っている方もいらっしゃいます。 ご家族からの電話も利用者の方に取次ぐ等の対応も行っています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の場所については視覚的にも分かりやすいように配慮をしています。 掲示物等でも季節を感じるできるように取り組んでいます。また、においや温度等も過ごしやすい様に気をつけて対応しています。 観葉植物や季節の草花を飾り、季節や自然を少しでも感じられるよう配慮させていただいています。	一人ひとりの落ち着いた空間となっており、その時の気分で居室と共有空間を自由に行き来している。トイレなどわかりやすく工夫され、手作りの大きな日めくりカレンダーや季節を感じる事ができる壁絵など見当識に配慮されていた。利用者が散歩の途中で摘み取った野草がホールに飾られており、温かく和やかな雰囲気を感じた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際に利用するテーブルの他にソファと机を用意し、一人でも、複数でも過ごせるような居場所を用意しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、カーテン以外は自宅で利用されていた家具等をご持参いただき、ご家族の協力のもとそれまでの生活を意識した部屋作りをしています。 ご家族の写真や仏様を持参され、飾られたり、置かれたりさせていただいております。	使い慣れた家具、テレビ、位牌、家族の手作りの作品など一人ひとりが落ち着いて過ごせる空間となっていた。体温調整が鈍麻になってきている利用者も少なくないため室温調整など配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はすべてバリアフリーとなっており、廊下や浴室には手すりを設置し、安心して生活できる環境となっています。		